

な か や か つ よ し

仲矢勝好と

宮崎交通制作室の仕事



《夕鶴》1989年

2024.

10.12 (土) ▶ 11.10 (日)

開館時間 10:00 - 17:00

(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日は除く) 祝日の翌日(土日は除く)

観覧料 大人500円(400円)

小中高生・高齢者・障がい者250円(200円)

本料金に常設展「観光と美術 自然・人工・人情の美」の観覧料を含む。()は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上、障がい者は障がい者手帳保持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町在住または高鍋町内の学校に在籍する小中高生および特別支援学校生は無料。

主催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

協力 宮崎交通史料編纂室

後援 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送

UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎



NAKAYA Katsuyoshi and Miyazaki Kotsu Co., Ltd. studio



《ガリヴァー旅行記》1977～1981年 ※写真での展示

県民に親しまれてきた、巨大なガリヴァー壁画*を手掛けた仲矢勝好の初回顧展。*宮交シティ（宮崎県宮崎市）に設置

仲矢勝好は、1927年宮崎市に生まれました。宮崎市立宮崎商業学校を卒業後、映画館の看板製作に携わり、商工会議所で勤めたのちに、1948年宮崎交通に入社。広告、デザイン、イベントのアートディレクションなど宮崎交通に関する仕事を幅広く手がけました。なかでも、たった一人で約4年の制作期間を経て完成した宮交シティの壁画《ガリヴァー旅行記》は多くの県民から親しまれ、愛され続けています。その名は全国に知れ渡るところとなり、雑誌『デザイン』（1963年・美術出版社）、書籍『図案の手帖』（1976年・野ばら社）などにも取り上げられています。

その一方で、1955年に宮崎県美術展で初めての特選を受賞するなど、制作室での仕事とは別に、自身の表現世界も展開していきました。

本展では、宮崎観光ブームの陰の立役者として異彩を放った仲矢のアートワークと、そうした仕事とはまた一線を画し、制作し続けた荘厳な美しさを放つ絵画作品の双方を、一堂に展示するものです。



上段
《白い立夏の風》1991年
下段・左から
《桜の花の下》1975年
《題不明》1990年
《緞帳エスキース》制作年不明



仲矢 勝好 なかやかつよし

1927年宮崎県宮崎市に生まれる。1943年宮崎市立宮崎商業学校（現・宮崎商業高等学校）を卒業。在学中に絵を描き始める。1947年に映画館の看板製作に携わり、商工会議所に在職。1948年に宮崎交通に入社し、広告デザインを担当。1977年に壁画《ガリヴァー旅行記》に着手、1981年に除幕。1982年に宮崎交通を退社し、アトリエでの制作を本格的に始める。その後、県内外の施設の壁画や緞帳を手掛ける。1992年没。

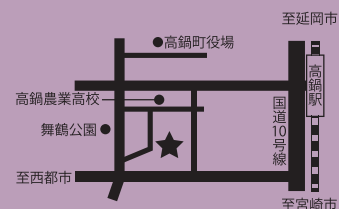


高鍋町美術館 TAKANABE MUSEUM OF ART

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1
TEL.0983-23-8887 FAX.0983-23-8890

交通案内

- タクシー
JR高鍋駅から約10分
- バス
JR高鍋駅から宮崎交通バス「一丁田經由西都行き」で「舞鶴公園前」下車徒歩3分または、「葦崎」下車徒歩1分



常設展示室は撮影不可